

インターネット時代のポップミュージック —初音ミクとニコニコ動画に見るポップミュージックの受容と供給—

Pop music of days of the Internet

友員 彩夏 (Ayaka Tomokazu) 指導：中村 要

1 序論

本論文はこの「ボーカロイド」と「ニコニコ動画」に注目し、現在起こっている音楽受容／供給の構造変化の仕組みを分析することを目的とする。

2 ボーカロイド

本章ではボーカロイドについて論じる。ボーカロイドとはヤマハが開発した音声合成技術及びその応用製品の総称である。本論文ではこの中でも主に初音ミクに焦点を当て論じる。

ボーカロイドの中でも初音ミクはアイコン的な役割を負っている。初音ミクはユーザーが制作する動画によって白紙の存在にキャラクター性を書き込まれている。そのキャラクター性の構築メカニズムには「データベース・モデル」を適用することができる。そこでの初音ミクはオリジナルではなく、シミュラクルとして存在しているのである。

しかし従来のオタク系文化におけるデータベース・モデルと初音ミクは、共通する点としない点がある。共通しない点としては、いわゆる「萌え要素」ではなく各楽曲で描かれる初音ミクがデータベース化され共有されているという点が挙げられる。

3 ニコニコ動画

本章ではニコニコ動画について論じる。ニコニコ動画の特徴としてコメントシステムが挙げられる。「疑似同期」を実現するこのコメントシステムは、「いま・ここ」性を複製する装置である。

このような構造を持つニコニコ動画とボーカロイドは親和性が高い。それゆえに現状、ボーカロイド楽曲はニコニコ動画に多く発表されている。他のインターネットサイトとニコニコ動画を比較し、この点を明らかにする。

またニコニコ動画はコモズ的に動画が発展する。その仕組みを、具体例を用い論じる。

ニコニコ動画には「タグ」など独自の文化を持つものもある。ボーカロイド楽曲周辺のニコニコ動画独自の文化について述べる。

また、ニコニコ動画以外のサイトを例にどのように動画が作られているか、動画制作がコミュニケーションツールとなっているかを、例を挙げ検討する。

4 ボーカロイド楽曲制作者へのインタビューに見る楽曲制作の実態

本章ではボーカロイド楽曲制作者のインタビューを通し、実際に楽曲制作がどのように行われているか、ボーカロイドがどのように受容され消費されているかを明らかにする。

ここでキーワードになるのは「人形愛」「作者の死」そして「アクチュアルな空間としてのニコニコ動画」である。

5 ボーカロイドとニコニコ動画、そして音楽の現在

本章ではニコニコ動画から生まれたボーカロイド楽曲がどのように現実の社会と関わっているかについて論じる。

まずDJ文化とボーカロイド文化を比較することにより、2つの文化の類似点、相違点を挙げる。

そしてボーカロイドは現実には浸透し得るかをテーマに、現実社会とインターネットの関わり方の現状について考察する。

6 結論

結論として、ボーカロイド、ニコニコ動画は様々な現代社会を表象する要素を持ったシステムであり、そのシステムが機能することにより音楽の受容／供給の制作フローに変化が生じているということを提示したい。そしてその変化は現時点においてあくまで過渡期であり、そのことは現在においてインターネットと現実社会が全くのイコールではなく、異なるレイヤーに存在する要素が多くあるということの論拠となることも併せて提示したい。